

アドバイザー派遣事業 実施レポート

西部学びの会
代表 狩野 実

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日 平成28年11月17日（木）
3. アドバイザー 杉江修治 教授（中京大学）
4. 研修のまとめ

今回の研修では、次の2つの視点を定め、授業研究を行った。

- 視点1 生徒が「課題が明確で、振り返りは適切だったか」
 視点2 生徒が「ねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」

事後の研究会では、上記2つの視点を中心に、様々な学校の先生とマトリクス法によるグループ討議を行い、①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要なことについて8つのグループで話し合いを行った。その後、8グループの中から2グループを指名して発表し、全体で共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> ・めあてが明確だった。 ・学習の流れが細かく丁寧に説明されていた。 ・4つの観点と評価規準が示されていてよかった。（ABCの基準が設定されていること、めあてに対して具体的な視点が示してあり、課題がよくわかり、この授業で自分が何を目指せばよいのかが明確だった。） ・学び合いの雰囲気が良く、生徒同士積極的に教え合う姿が見られた。 ・友人の発表に対して、4つの観点到触れながらの感想があって良かった。 ・視聴覚機器の使い方が効果的で工夫されていた。 ・教師の評価言が多く、良かった。 ・最初にスピーチの良い例、悪い例を示したことが分かりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間の確保が必要である。（そのため、前時までにやっておくことがあったのではないか。） ・全員発表させる方がよい。 ・グループでの話し合いの指示をより明確にするとうよい。（話し合いの仕方、内容、アドバイスの視点の提示が必要） ・指示が多く、説明の時間が長くなってしまっていた。 ・最初の個人練習は省き、グループでの学び合いにもっと時間をかけるべきだった。 ・途中で手本となるような生徒に発表をさせてみてはどうだったか。 ・グループ内で相互評価させてみてはどうだったか。 ・スピーチなのか？音読なのか？また、スピーチをすることなのか？スピーチを作ることなのか？

アドバイザーの杉江先生からは、今回の授業について、次のような指導講評をいただいた。

- ・参加・協同を促す工夫があった。
- ・個人の取り組みに集中する姿が見られた。
- ・教師が手本を示すことは要求水準を上げることになり、良かった。
- ・スピーチの意義、学びの価値を伝えていて良かった。

- ・グループでの練習の仕方を指示しておくべきだった。
- ・先生の評価に基づいた学び合いができたのは良かった。
- ・一生懸命活動はしたが、スピーチがうまくなったという成功体験を持てたかどうかが大切。
- ・全体発表の前に、先生からもらった評価を伝えてから発表すると、4観点にしたがった工夫になった。

また、協同学習について「協同が支えるアクティブな学びー考え方と進め方」というテーマでお話いただいた。

○学びのマップづくり

- ・生徒一人ひとりに学びのマップ（学習課題、学習の筋道、学習の値打ち）を持たせて学習に入ること。
- ・よい学習課題の条件は明確であることーゴールの明確化。
- ・本時・単元の確かな「振り返り」の必要性。
- ・明確な課題（集団課題）の設定や単元の見通しづくり。
- ・指導目標から学習目標を考えそれを達成できるための学習課題づくり。
- ・個人思考と集団思考を適切に組み合わせた授業の流れ、振り返りの工夫が必要であること。

○協同の仕掛けづくり

- ・学級の仲間全員の成長を目指す学級づくりを行うこと。

○授業における教師の役割

- ・教師は学びのコーディネータ、仕掛けづくりが大切であり、授業を教師主導から生徒主導へ転換すること。
- ・すべての生徒は成長意欲を持っていることを確信することが必要である。

また、校区の小学校の先生の参加も多かったので、協同学習について改めて共通理解できた。授業のスタイルを同じくすることは、生徒にとって安心感につながるだろうと考える。今後の小中連携にとっては有益だった。

生徒同士の「学び合い」は、仲間づくりはもちろん、学力面でもプラスに働くものであると考えている。今後もそれぞれの学校で「学び合い」の実践がさらに深まっていくように声を掛け合い、研修を深めていきたいと考えている。